



交流広場（仮）完成イメージ

砂沼周辺地区都市再生整備計画事業① まちなかのにぎわい拠点 下妻の街を演出する 新たなプレイス(場所)を創ります

問い合わせ 都市整備課 ☎45-8128

交流広場(仮)



筑波大学
准教授 渡和由氏

交流広場(仮)の 整備にあたって

市民ワークショップ等で得られた「フレキシブル」という概念は、この広場の基本だと思います。敷地の中には屋根無し、屋根付き、建物付きの大枠3種類の空間が用意されます。それらの特色を活かして、可動式のイス・テーブルや車両などで色々な場をつくる事ができます。1人で毎日来ても、みんなで時々集まっても楽しい場になる可能性を感じます。

そこで、日常的で個人的な楽しみ方や能動的な運営と設営の仕組みが重要です。

「グランドプラザ」 富山市まちなか賑わい広場

事例紹介

北陸特有の降雪寒冷地に配慮し、ガラスの大屋根を備えた全天候型の多目的広場。平成19年9月にオープンし、さまざまなイベントや展示会等の民間事業と、自主事業の展開により、まちなかの賑わい創出に寄与する。平成26年度の休日稼働率は99.1%、平日を含む全日稼働率も74.6%と高利用率を誇る。



こんな使い方ができる広場を目指しています！

平成25年度から進めてきた市民ワークショップ等では、まちなか広場に求めるものとして「多世代・多目的」、そして「フレキシブル」(=柔軟性のある)に使えるようにという意見が多く出されました。

市民協働で築き上げる拠点施設が、まちなかのさまざまなシーンを演出し、たくさんの思い出がつけられる場所にするため、自由に使える都市空間の整備と使い方のルールづくりを進めています。

できる 専用(貸切)使用

屋根付多目的広場では、イベント・お祭り・展示会など天候を気にせずにさまざまな催しが可能。2020年東京オリンピックは、まちなか広場のパブリックビューイングで盛り上がるということも実現できます。



できる 行為(パフォーマンス)使用

移動販売車を出したい、写真・映画の撮影をしたい、路上演奏をしたいなど、一人でもできる活動を手軽にできるような仕組みをつくりたい。

できる スポーツ使用

テニス・フットサル・バスケットなど、日中はもちろん仕事帰りにも楽しめるよう夜間照明を設置。スケートボードは東京オリンピックの追加種目です。下妻のエクストリーム広場で技を磨いたスケーターが表彰台に登るかもしれません。



できる 普段使い(まちなかの居場所)

一人で読書、放課後に友人とおしゃべり、子連れでお弁当など、何気ない日常を楽しむ場所として使えます。



使える 子育て支援

特に未就学児を安心して遊ばせることができるスペースを設置。雨の日でも子どもが遊べる、広場に行けば子育て世代が集まっている、そんな空間と仕組みづくりをします。

使える 防災機能

有事の際に、まちなかの一時避難や野営施設として使用します。

使える 回遊拠点

サイクルポートを設置し、まちなかの回遊拠点とします。

市は現在、砂沼周辺地区都市再生整備計画事業の目標である「まちなかのにぎわい再生」を達成するための2つの拠点として「砂沼エントランス(仮)」と「交流広場(仮)」の平成29年3月末の完成を目指し、先行造成工事を行っています。今月号では、完成すると茨城県内で最大規模の屋根付まちなか広場となる「交流広場(仮)」について、施設の内容や使い方などを紹介します。

市民協働 みんなの声を生かして

子育て世代ワークショップ



子育て中の親子が訪れたときにプレイルームで自由に遊べる時間帯を確保することや、室内レイアウトを子どもの安全確保の視点から変更を提案するなど、具体的な意見が交わされました。ママたち、子どもたちがたくさん集まり、安心して遊び、楽しい声があふれる集いの場となることを期待しています。(酒寄三枝子さん・40代)

エクストリームワークショップ



スケボーはとても盛り上がるスポーツなので、それを活かして盛り上がる市にしたいと思いワークショップに参加しました。下妻市にスケボーパークができたことがきっかけで、スケボーを始める子や興味を持つ人が増えるとうれしいです。(下妻一高1年・青木翼さん)
世界につながるようなスケートパークを作りたいとワークショップに参加しました!スケボーは初心者から上級者まで年齢を問わないので1つのフィールドで楽しめます。コミュニケーションの場の1つとして利用してもらえたらと思います!(東部中2年・吉川楓さん:プロスケーター)